



仮想インフラストラクチャの管理

この章は、次の項で構成されています。

- 「VMware の管理について」 (P.7-1)
- 「クラウドの検出と接続の確認」 (P.7-3)
- 「vCenter プラグインの確認」 (P.7-4)



(注) 当該アプライアンスにログインしてからでないと、以下の手順はいずれも実行できません。

VMware の管理について

Cisco UCS Director は、vCenter (ESX 3.5、ESX/ESXi 4.x および 5.x) を介して VMware をサポートします。

Cisco UCS Director では、新しく追加されたクラウド アカウントに含まれている既存の仮想マシン (VM) とイメージが、すべて自動的に検出されます。通常、この検出プロセスには 5 分ほどかかります。

VMware クラウドと PowerShell エージェントを追加できます。



(注) ここで言う「クラウド」とは、1 つの vCenter インストール環境を指します。

クラウドの作成

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [仮想アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2** [仮想アカウント] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [クラウドの追加] ダイアログボックスの [クラウドタイプ] ドロップダウン リストから、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - AWS-EC2
 - VMware
 - RackSpace-Cloud
 - Tier3-Cloud

- Hyper-V
- Red Hat KVM
- XenDesktop

ステップ 5 [クラウドの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[クラウドタイプ] ドロップダウン リスト	[VMware] を選択します。 [VMware] を選択すると、以下の各フィールドが表示されます。他のクラウドタイプを選択した場合は、そのクラウドタイプに固有のフィールドが表示されます。
[クラウド名] フィールド	クラウド名。 (注) 各クラウドには、Cisco UCS Director 内で一意の名前を付ける必要があります。クラウドの追加後は、すべてのレポートでこのクラウド名を使用してクラウドが表示されます。
[サーバのアドレス] フィールド	vCenter サーバのアドレス。
[サーバのユーザ ID] フィールド	vCenter サーバのユーザ名。
[サーバのパスワード] フィールド	vCenter サーバのパスワード。
[サーバアクセスポート] フィールド	サーバのポート番号。
[VMware データセンター] フィールド	vCenter アカウントのデータセンター名。この名前を使用して、指定したポッドのリソースの検出、モニタリング、管理を実行できます。vCenter アカウント全体を Cisco UCS Director で管理する場合は、このフィールドを空白にします。
[サーバアクセス URL]	サーバアクセス用の URL。
[説明] フィールド	クラウドの説明。
[連絡先の電子メール] フィールド	クラウドの連絡先の電子メール アドレス。
[ロケーション] フィールド	ロケーション。
[ポッド] ドロップダウン リスト	統合インフラストラクチャ ポッドを選択します。ポッド名を選択すると、VMware クラウド アカウントが統合インフラストラクチャ スタックに表示されます。
[サービスプロバイダー] フィールド	サービス プロバイダーの名前。

ステップ 6 [追加] をクリックします。

PowerShell エージェントのインストーラのダウンロード

PowerShell エージェントは、Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 (64 ビット版) の仮想マシンにインストールされます。

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[仮想アカウント]の順に選択します。

- ステップ 2** [PowerShell エージェント] タブを選択します。
- ステップ 3** [インストーラのダウンロード] をクリックします。
- ステップ 4** [エージェントのインストーラのダウンロード] ダイアログボックスで、一覧表示されたインストール要件をシステムが満たしているかどうかを確認します。要件が満たされている場合は、[送信] をクリックします。
- ステップ 5** [PSASetup.exe を開いています] ダイアログボックスで、実行可能ファイルを保存するよう要求されます。[ファイルの保存] をクリックします。システムのダウンロード場所にファイルが保存されます。
- ステップ 6** **PSASetup.exe** ファイルを Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 (64 ビット版) の仮想マシン (VM) にインストールします。

PowerShell エージェントの作成

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[仮想アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2** [PowerShell エージェント] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [エージェントの追加] ダイアログボックスで、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[エージェント名] フィールド	エージェントの名前。
[エージェントアドレス] フィールド	エージェントのアドレス。
[エージェントのアクセスポート] フィールド	エージェントのアクセス ポート番号。
[アクセスキー] フィールド	アクセス キー。
[説明] フィールド	エージェントの説明。

クラウドの検出と接続の確認

接続のテスト

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[仮想アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2** [仮想アカウント] タブを選択します。
- ステップ 3** テストする VMware アカウントを選択します。
- ステップ 4** [接続のテスト] をクリックします。

(注) クラウドアカウントを Cisco UCS Director に 1 つ以上追加すると、[サマリー] タブを使用してクラウドとそのデータの収集を確認できます。

ステップ 5 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

ステップ 6 [サマリー] タブを選択します。

(注) 自動検出の完了とデータの入力に数分かかることがあります。クラウド名を選択すると、そのステータスの詳細が表示されます。

vCenter プラグインの確認

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[仮想アカウント] の順に選択します。

ステップ 2 [プラグイン] タブを選択します。このタブには、UCS Director に追加された vCenter に追加されたプラグインがすべて表示されます。
